

# キックオフパーティーと時局講演会

本格シーズンを前にキックオフパーティー



東京冷凍空調事業協組が開催

東京冷凍空調事業協組  
合（理事長・沖原正宜氏）  
は三月二十八日午後、東京  
・港区海岸のインターコン  
チネンタル東京ベイで平成  
二十年度キックオフパーテ  
ィー・時局講演会を開催し  
た。

を兼ねて開かれたもので、  
来賓としてイース、東電ホ  
ームサービスの幹部さらに  
組合員ら約六十名が出席し  
た。  
時局講演は、沖原理事長  
の友人であるジャーナリス  
トの

この催しは、本格シーズ

ンを前に平成二十年度も事  
故なく期日内に完工するこ  
とを期して、加えて、ユー  
ザーに対する日頃のご愛顧



沖原理事長

トの眞信彦氏が「わが国政  
治、経済の現状と今後の展  
開」をテーマに講演した。

## 市場に恵まれ、確 実に組合事業拡大

沖原理事長が近況説明

沖原正宜理事長は、組合  
活動の近況について次のよ  
うに語った。

私ども「東京冷凍空調事  
業協同組合」（組合員十四  
社）は発足以来、着実に成  
長を続けている。施工高も  
年々倍増ペースで推移して  
おり、〇九年（一〜十二月）  
は当初目標（約二十億円）  
を大幅に上回る四十三億円  
を達成することができた。  
その要因としては、市場に  
恵まれたこと、良きパート  
ナーに恵まれたこと、加え  
て、協力会社を含めた組合  
全体の施工技術の向上など  
をあげることができると思  
う。

仕事の内容は、東電グル  
ープ関連の工事物件が大半  
で、そのうちの九〇％が東  
京都内各区や千葉、埼玉な

どの小・中学校の空調設備  
工事となっている。受注金  
額、規模などはそれぞれの  
自治体によってさまざまに  
ある。

しかしながら、こうした  
右肩上がりの成長が今後も  
続くものとは決して考えて  
いない。事業経営には、必  
ず浮き沈みが付きものであ  
り、施工高が減少した時ど  
うするかである。現状にお  
ける組合の受注・施工能力  
は、「前期施工高四十三億  
円の五割増し」はあると見  
ている。

しかし、売り上げ（施工  
高）の拡大を望むのではな  
く、まず、組合の経営基盤  
の充実が大切であると認識  
しているところである。組  
合員の数を増やして、組合  
活動をさらに拡大し、施工  
高を伸ばしていく考えは持  
っていない。しっかりと  
良い仕事をすれば、社会的  
にも評価されるし、仕事も  
貰える。したがって、今期  
は施工金額の増加もさるこ  
とながら、内部体制の強化  
に重点を置いて活動してい  
きたい。加えて、官公需あ  
るいは民間物件などへの入  
札指名などの対応策を考え  
ていきたい。

もう一つの組合事業であ  
る業務用冷凍空調機器のネ  
ット販売「エアコンネット  
マート」については三億円  
前後の売上げであった。